

目 次

警防編

火災

・火災の概要	1
・火災件数の推移	1
・火災発生状況前年との比較	2
・月別火災発生状況	3
・主な出火原因と経過	4
・初期消火状況	4
・原因別出火件数及び損害額	5

救急

・救急体制	6
・救急医療体制	6
・救急の概要	7
・救急出動状況	8
・救急出動状況前年との比較	9
・月別救急出動件数	10
・時間別救急出動件数	11
・急病にかかる疾病分類別搬送人員	11
・現場到着所要時間別出動件数	12
・収容所要時間別搬送人員状況	12
・応急処置実施件数	13
・救急講習会実施状況	14

救助

・救助体制	15
・救助の概要	15
・出動件数等の推移	15
・救助出動状況前年との比較	16
・月別救助出動件数	16
・救助種別及び傷病程度	17
・発生場所別出動件数	17

管制

・ 消防通信系統図	1 8
・ 高機能消防指令センター	1 9
・ 統合型位置情報システム	1 9
・ 指令電送装置・消防職員／消防団指令システム	1 9
・ Net 1 1 9 緊急通報システム	1 9
・ 緊急通報システム	1 9
・ 緊急通報受信専用ファクシミリ	1 9
・ 非常通報電話	1 9
・ 兵庫県広域災害・救急医療情報システム	1 9
・ 緊急情報ネットワークシステム	1 9
・ 兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム	1 9
・ 兵庫県衛星通信ネットワーク	1 9

通信・気象

・ 1 1 9 番受付件数	2 0
・ 気象状況	2 1

施設及び装備

・ 消防水利の現況	2 2
・ 消防車両一覧	2 2
・ 主な消防機械器具の状況	2 3

水防

・ 調査	2 4
・ 活動	2 4

火 災

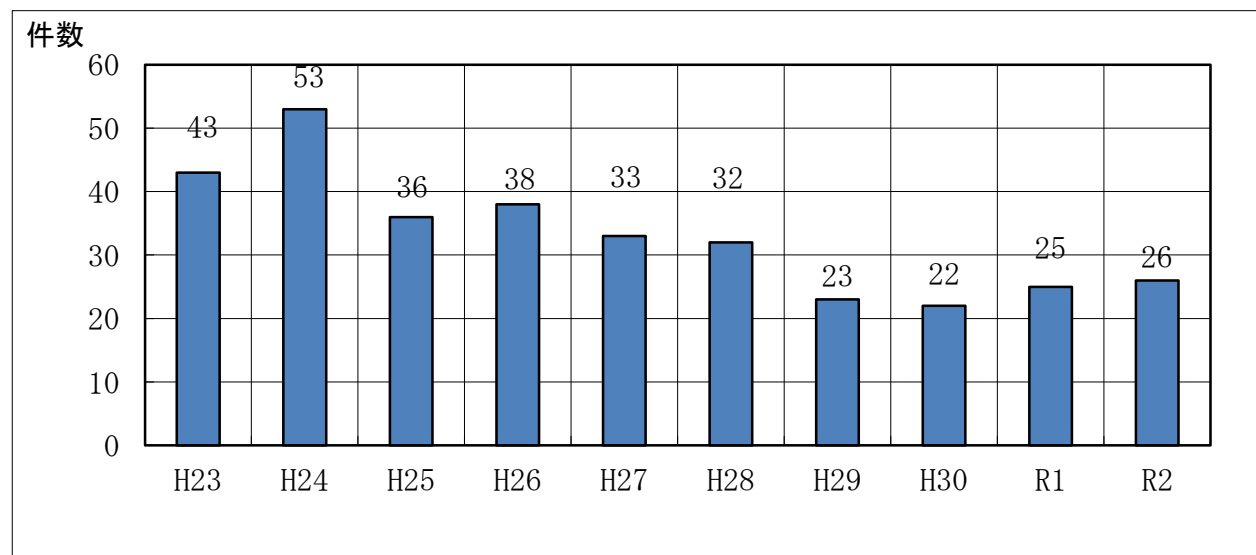
火災の概要

令和2年の火災件数は26件で、前年に比べ1件の増加となっています。

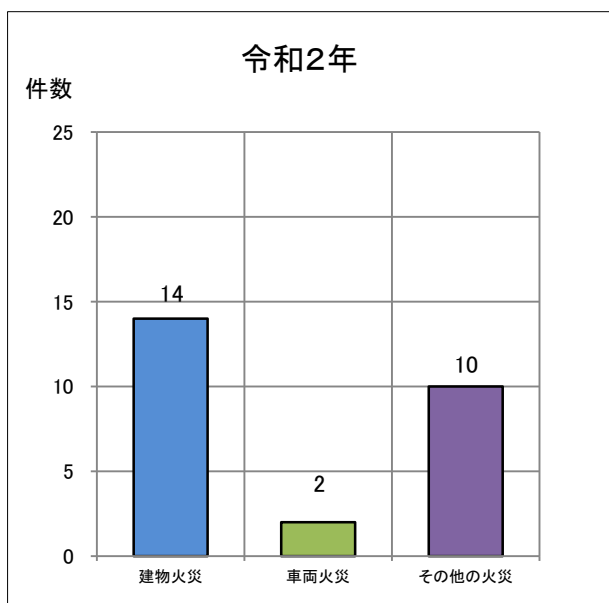
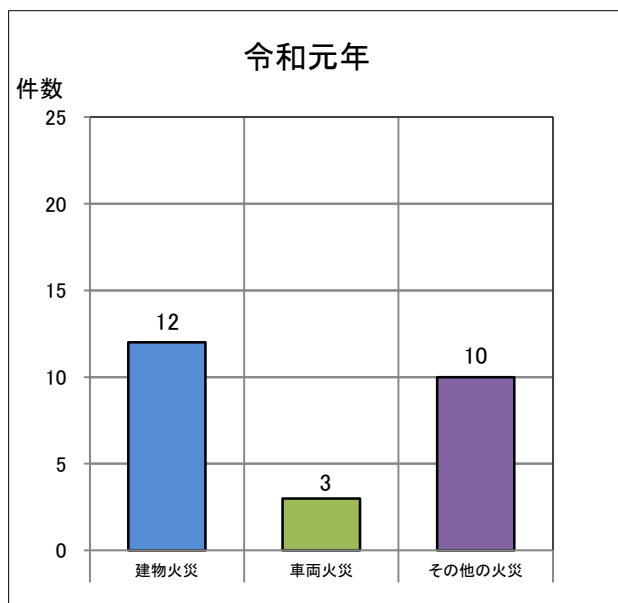
火災損害額は108,941千円で、前年に比べ95,429千円増加し、1件あたりの損害額は4,190千円となっています。

死傷者については、死者0人（前年比増減なし）、負傷者6人（前年比4人増）となっています。

火災件数の推移



火災種別で見ると、建物火災が14件（前年比2件増）と最も多く全体の54%を占め、次いでその他の火災が10件（前年比増減なし）で38%、車両火災が2件（前年比1件減）で8%となっています。



火災発生状況前年との比較

区 分		年 別		令和2年	令和元年	増 減
		令和2年	令和元年			
火 災 件 数 (件)	建 物 火 災			14	12	2
	林 野 火 災					
	車 両 火 災			2	3	△ 1
	船 舶 火 災					
	航 空 機 火 災					
	そ の 他 の 火 災			10	10	0
	合 計			26	25	1
損 害 額 (千円)	建 物			59,836	2,965	56,871
	収 容 物			48,557	5,854	42,703
	林 野					
	車 両			486	461	25
	船 舶					
	航 空 機					
	そ の 他			62	4,232	△ 4,170
	爆 発					
	合 計			108,941	13,512	95,429
焼 損 面 積	建 物	床 面 積 (㎡)		511	32	479
		表 面 積 (㎡)		162	5	157
	林 野 (a)					
焼 損 車 両 台 数				2	3	△ 1
焼 損 船 舶 数						
焼 損 航 空 機 数						
焼 損 棟 数	全 焼			4		4
	半 焼			1	1	0
	部 分 焼			12	5	7
	ぼ や			10	7	3
	合 計			27	13	14
り 災 世 帯 数				21	7	14
り 災 人 員				44	19	25
死 者						
負 傷 者				6	2	4

月別火災発生状況

(令和2年)

区 分		月 別												
		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災 件数 (件)	建物火災	14	1	2	2	2			2	3			1	1
	林野火災													
	車両火災	2							1			1		
	船舶火災													
	航空機火災													
	その他の火災	10	3		1		1	1	1	1	1	1		
	合計	26	4	2	3	2	1	1	4	4	1	2	1	1
損害 額 (千円)	建物	59,836	12,016	12,898		19			22,270	12,633				
	収容物	48,557	1,491	5,346	941	4			39,539	1,224			11	1
	林野													
	車両	486							86			400		
	船舶													
	航空機													
	その他	62			1				11	49	1			
	爆発													
合計	108,941	13,507	18,244	942	23			61,906	13,906	1	400	11	1	
焼損 面積	建物 (㎡)	床面積	511	86	114				204	107				
	表面積	162		3		4				155				
	林野(a)													
焼損車両台数		2							1			1		
焼損船舶数														
焼損航空機数														
焼損 棟数 (棟)	全焼	4	1						1	2				
	半焼	1		1										
	部分焼	12	1	2		1			1	7				
	ぼや	10	2		2	1			2	1		1	1	
	合計	27	4	3	2	2			4	10			1	1
り災世帯数		21	4	3		2			2	9			1	
り災人員		44	5	12		4			5	17			1	
死者														
負傷者		6		1		1			2		1	1		

主な出火原因と経過

(令和2年)

出火原因	件数	経過	件数
たばこ	1	放火(疑い含む)	6
こんろ	2	火源が動いて接触する	5
ストーブ	2	スパークする	3
電気装置	2	その他	12
配線器具	1	合計	26
こたつ	1		
火入れ	5		
放火	5		
放火の疑い	1		
その他	6		
合計	26		

初期消火状況

(令和2年)

区分	火災種別	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他の	合計
		火災	火災	火災	火災	火災	火災	
初期消火実施 (初期消火で鎮火)		8 (5)		1			7 (3)	16 (8)
初期消火なし		6		1			3	10
火災件数		14		2			10	26

原因別出火件数及び損害額

(令和2年)

月別 区別	月別												合計	損害額 (千円)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
たばこ								1						1	5,761
こんろ				1			1							2	16
ストーブ				1								1		2	23
電気装置			1					1						2	1,507
配線器具							1							1	61,794
こたつ		1												1	1,571
火入れ					1	1	1		1	1				5	4
放火	3		1						1					5	24
放火の疑い	1													1	13,507
その他		1	1				1	1		1	1			6	24,734
合計	4	2	3	2	1	1	4	4	1	2	1	1	26	108,941	

救 急

救急体制

本市の救急業務は、昭和38年4月26日高砂ロータリークラブから救急車の寄贈を受けて開始して以来、年々高まる救急需要に適宜対応し、救急体制の整備を図ってきました。また、平成22年10月から高砂西部地域の救急体制を強化するため、北浜救急ステーションを開設（平日昼間）し、現在では専任救急隊2隊、兼任救急隊1隊、北浜ステーション隊1隊の4隊体制となっています。

平成3年の救急救命士法施行以来、平成15年に包括的指示下での除細動、平成16年に気管挿管、また、平成18年には薬剤投与、平成26年4月から心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与について救急救命士の処置範囲が拡大されました。

これらに対応すべく医療機関との更なる連携、高度救命処置用資機材の整備、また救急隊員の再教育(病院実習等)等救急業務の高度化を図ることにより、市民の救急に対するニーズに応じています。

(令和3年4月1日現在)

救 急 車 数	4台
救 急 隊 員 数	専任23人 ・ 兼任10人
救 急 救 命 士	35人
気管挿管認定救急救命士	28人
薬剤投与認定救急救命士	28人
拡大二行為認定救命士	24人

救急医療体制

夜間の救急医療体制については、昭和55年4月に東播磨2市2町（加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）並びに高砂市医師会と加古川市加古郡医師会で財団法人東播磨臨海救急医療協議会を設立し、内科及び小児科の診療体制で年間を通じて、内科は午後9時から午前6時まで、小児科は午後9時から午前0時まで「加古川夜間急病センター」において、初期救急医療に対応するとともに外科及び2次救急については、東播第2次救急病院協議会に加盟している10病院の輪番制で対応しています。また、県立加古川病院が、平成21年11月から県立加古川医療センター・救命救急センターとして、地域の3次救急医療を担っています。

小児2次救急については、平成12年の4月から東播磨3市2町（明石市・加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）の指定病院で対応しています。

また、休日及び年末年始については、高砂市医師会が午前9時から午後6時までの間、内科及び外科の診療を会員の在宅当番制で実施しています。

救急の概要

令和2年の救急出動件数は、3,771件で前年に比べ475件減少し、傷病者搬送人員は3,392人で455人減少しており、出動件数及び搬送件数ともに減少となっています。

これは、1日平均10.3件出動したこととなり、市民26人に1人を救急車で医療機関へ搬送したことになります。

事故種別では、急病が2,436件(303件減)と最も多く全体の64.6%を占め、次いで一般負傷が564件(38件減)15.0%、転院搬送が301件(56件減)7.9%となっています。

傷病程度別搬送人員は、軽症が1,538人(384人減)45.3%を占め、中等症は1,561人(58人減)と最も多く全体の46.0%、重症は238人(13人減)7.0%、死亡は55人(増減なし)1.6%となっています。

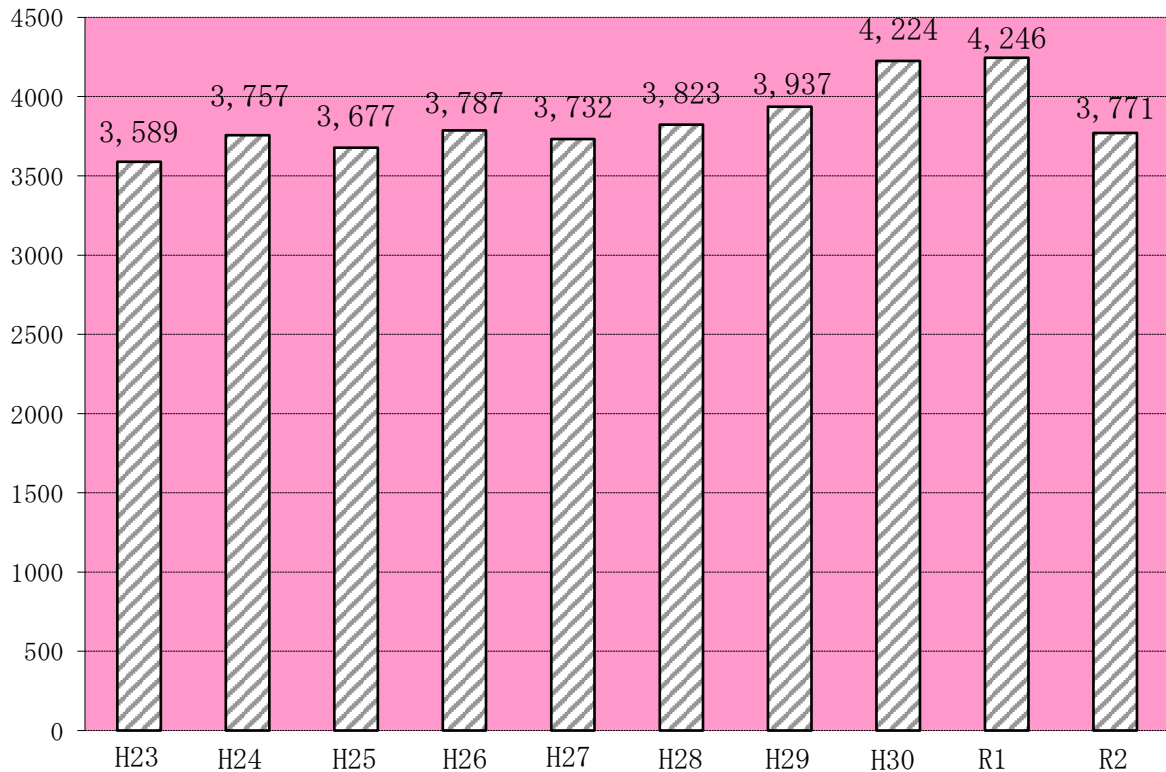
(令和2年)

区 分		救急出動件数	比 率	搬送人員
合 計		3,771	100.0%	3,392
救 急 事 故 種 別	火 災	9	0.24%	1
	自 然 災 害	1	0.03%	1
	水 難 事 故	4	0.11%	3
	交 通 事 故	299	7.93%	260
	労 働 災 害	47	1.25%	44
	運 動 競 技	16	0.42%	16
	一 般 負 傷	564	14.96%	513
	加 害	17	0.45%	14
	自 損 行 為	40	1.06%	24
	急 病	2,436	64.59%	2,214
	そ の 他	転 院 搬 送	301	7.98%
	医 師 搬 送			
	資 機 材 等 輸 送			
	そ の 他	37	0.98%	0

救急出動状況

区分 年別	合計	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	搬送人員	人口
	平成23年	3,589	1		6	473	32	32	460	17	57	2,234	277	3,293
平成24年	3,757	8		6	468	42	11	505	18	38	2,372	289	3,451	94,970
平成25年	3,677	3		2	426	40	27	495	14	30	2,365	275	3,360	94,282
平成26年	3,787	3		5	414	33	26	534	22	38	2,455	257	3,487	93,818
平成27年	3,732	10	2	6	396	26	22	538	27	18	2,375	312	3,462	93,357
平成28年	3,823	12	1	4	394	29	38	532	27	25	2,434	327	3,510	92,770
平成29年	3,937	11		1	389	37	25	565	20	33	2,542	314	3,602	92,020
平成30年	4,224	8		2	384	44	24	535	14	31	2,838	344	3,867	91,159
令和元年	4,246	7		5	379	49	22	602	12	39	2,739	392	3,847	90,462
令和2年	3,771	9	1	4	299	47	16	564	17	40	2,436	338	3,392	89,762

件数



救急出動状況前年との比較

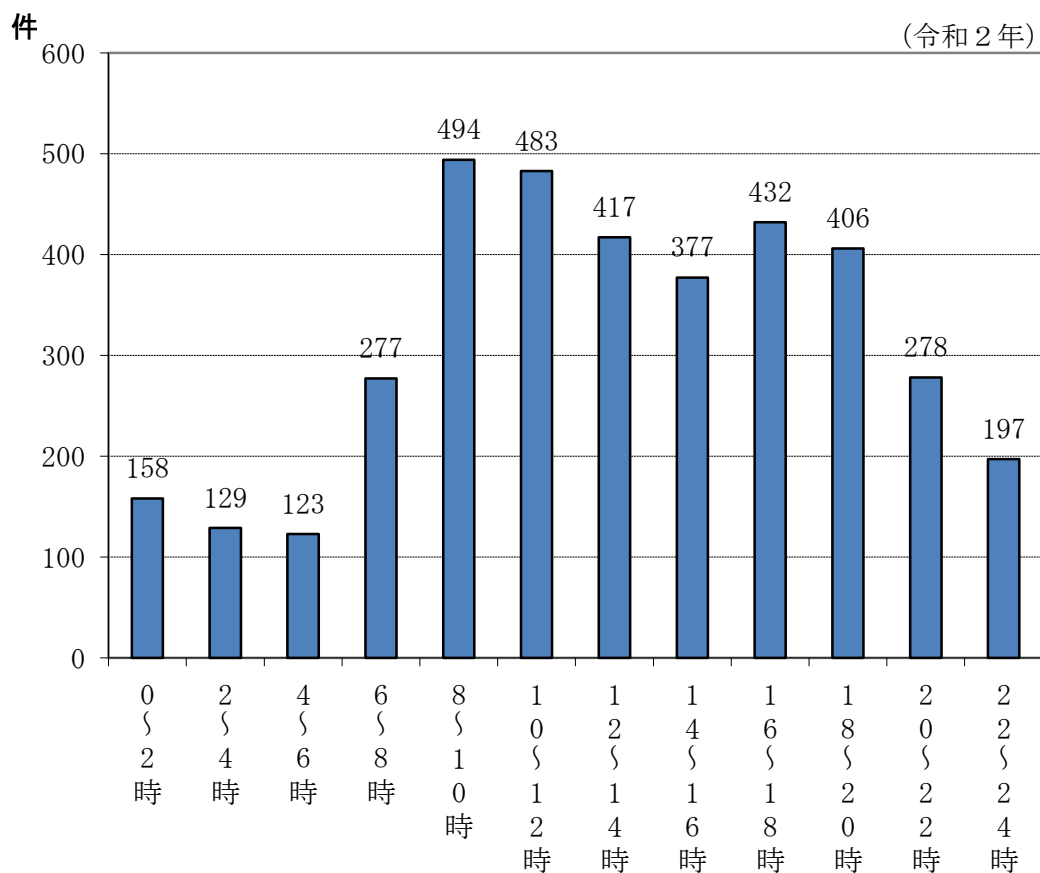
区 分		年 別	令和2年	令和元年	増 減	
合 計			3,771	4,246	△ 475	
救 急 事 故 種 別	火 災		9	7	2	
	自 然 災 害		1		1	
	水 難 事 故		4	5	△ 1	
	交 通 事 故		299	379	△ 80	
	労 働 災 害		47	49	△ 2	
	運 動 競 技		16	22	△ 6	
	一 般 負 傷		564	602	△ 38	
	加 害		17	12	5	
	自 損 行 為		40	39	1	
	急 病		2,436	2,739	△ 303	
	そ の 他	転 院 搬 送		301	357	△ 56
		医 師 搬 送			1	△ 1
		資 機 材 等 輸 送				
		そ の 他		37	34	3
不 搬 送 件 数			394	435	△ 41	
搬 送 人 員			3,392	3,847	△ 455	
傷 病 程 度	死 亡		55	55	0	
	重 症		238	251	△ 13	
	中 等 症		1,561	1,619	△ 58	
	軽 症		1,538	1,922	△ 384	
	そ の 他					

月別救急出動件数

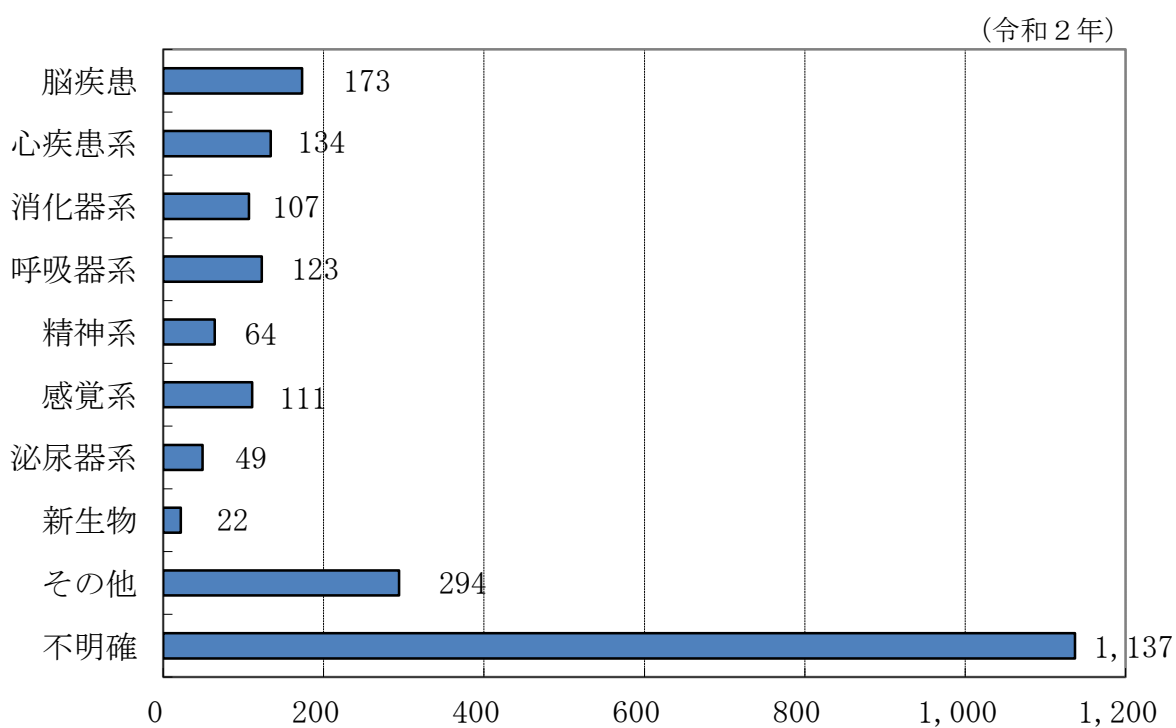
(令和2年)

月別 区分		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		合計	3,771	365	296	307	279	257	283	296	380	287	355	309	357
救急 事故 種 別	火災	9	1	2	1	1			1	2		1			
	自然災害	1	1												
	水難事故	4	1							1	1	1			
	交通事故	299	22	21	21	19	23	25	22	27	31	24	29	35	
	労働災害	47	3	2	3	2	3	6	4	12	4	2	3	3	
	運動競技	16	1							1	2	8	1	3	
	一般負傷	564	49	43	37	49	48	43	40	52	34	61	50	58	
	加害	17	2	2	2	1	1	1	2	2	1		2	1	
	自損行為	40	1	2	6	3	2	4	1	4	6	4	3	4	
	急病	2,436	254	197	202	183	155	180	207	250	181	223	192	212	
	その他	転院搬送	301	26	27	33	21	21	19	13	23	20	37	24	37
		医師搬送													
		資機材等輸送													
		その他	37	4		2		4	5	5	5	1	1	3	7
不搬送件数		394	41	31	23	26	24	38	26	42	30	42	26	45	
搬送人員		3,392	325	268	284	253	236	245	271	339	261	314	284	312	
傷病 程 度	死亡	55	8	5	1	5	6	3	3	4	6	9	3	2	
	重症	238	25	12	23	21	14	18	15	22	14	28	22	24	
	中等症	1,561	146	126	131	116	118	120	126	153	94	139	126	166	
	軽症	1,538	146	125	129	111	98	104	127	160	147	138	133	120	
	その他														

時間別救急出動件数



急病にかかる疾病分類別搬送人員



現場到着所要時間別出動件数

現場到着所要時間別出動状況は、5分以上10分未満が2,886件と最も多く全体の76.5%を占めている。なお、現場到着平均所要時間は6分53秒である。

(令和2年)

時間 区分	合計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上
合計	3,771	46	576	2,886	260	3
急病	2,436	20	334	1,918	163	1
交通事故	299	5	52	212	28	2
一般負傷	564	6	89	430	39	
上記以外	472	15	101	326	30	

病院収容所要時間別搬送人員状況

病院収容所要時間別の搬送人員は、30分以上60分未満が1,768件と最も多く全体の52.1%を占めている。

(令和2年)

時間 区分	合計	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	病院到着 平均所要時間
合計	3,392	141	1,388	1,768	89	6	32分38秒
急病	2,214	69	851	1,241	49	4	33分01秒
交通事故	260	22	120	112	5	1	30分33秒
一般負傷	513	27	189	282	15		33分17秒
上記以外	405	23	228	133	20	1	31分03秒

応急処置等の実施状況

(令和2年)

区 分	事故種別					合 計
	急 病	交通事故	一般負傷	左記以外		
応急処置対象搬送人員	2,210	259	506	403	3,378	
止 血	8	10	36	8	62	
固 定	8	60	26	15	109	
人 工 呼 吸	9		1		10	
心 肺 蘇 生	79	2	1	7	89	
酸 素 吸 入	377	12	21	85	495	
気 道 確 保	100	2	2	7	111	
うち経鼻エアウェイ ※1						
うち喉頭鏡、鉗子 ※2	1		1			
うちラリングアルマスク等 ※3	42			4	46	
うち気管挿管 ※4	2				2	
保 温	14	6	11	8	39	
被 覆	9	36	114	21	180	
在 宅 療 法 継 続	19			1	20	
除 細 動	6				6	
静 脈 路 確 保 (輸 液)	34	1	1	4	40	
薬 剤 投 与	16				16	
血 糖 測 定	6				6	
ブ ド ウ 糖 投 与	4				4	
血 圧 測 定	2,046	252	464	391	3,153	
心 音 ・ 呼 吸 音 聴 取	986	82	144	123	1,335	
血 中 酸 素 飽 和 度 測 定	2,140	257	505	395	3,297	
心 電 図	1,006	20	47	138	1,211	
合 計	6,867	740	1,373	1,203	10,183	

※1 経鼻エアウェイを使用して気道確保を行った数を内数として記載

※2 喉頭鏡・鉗子等により異物除去を行った数を内数として記載

※3 救急救命士がラリングアルマスク等を使用して気道確保を行った数を内数として記載

※4 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行った数を内数として記載

救急講習会実施状況

区 分	平成30年		令和元年		令和2年	
	回 数	人 数	回 数	人 数	回数	人 数
一 般 救 急 講 習 会	73	1,974	71	1,748	7	151
普 通 救 命 講 習 会	31	486	26	454	1	12
上 級 救 命 講 習 会	1	10	1	13		
応 急 手 当 普 及 員 講 習 I	2	8	2	2		
ジュニア救命士認定講習	9	697	9	654		
計	116	3,175	109	2,871	8	163

救 助

救助体制

火災、交通事故及び労災事故等の救助事案に対応する救助体制については、本市では長い間事故種別に応じて救急隊と消防隊が協力して、わずかな救助器具を活用して対応していました。

しかし、昭和61年には消防法の一部改正で救助隊の設置が義務づけられたこと、さらに管内で発生する救助事案も年々複雑化し、従来の対応では困難を生じてきたため、専門的な救助技術を有する救助隊の編成・配備が急務となってきました。

そこで平成元年に近隣各市等の協力を得て救助隊員の養成を開始し、平成2年8月に高砂市消防救助隊を隊長以下15名で発足させ、さらに平成3年には、省令第4条の基準に定められた救助器具を積載した救助工作車を購入・配備して本格的な活動を開始しました。

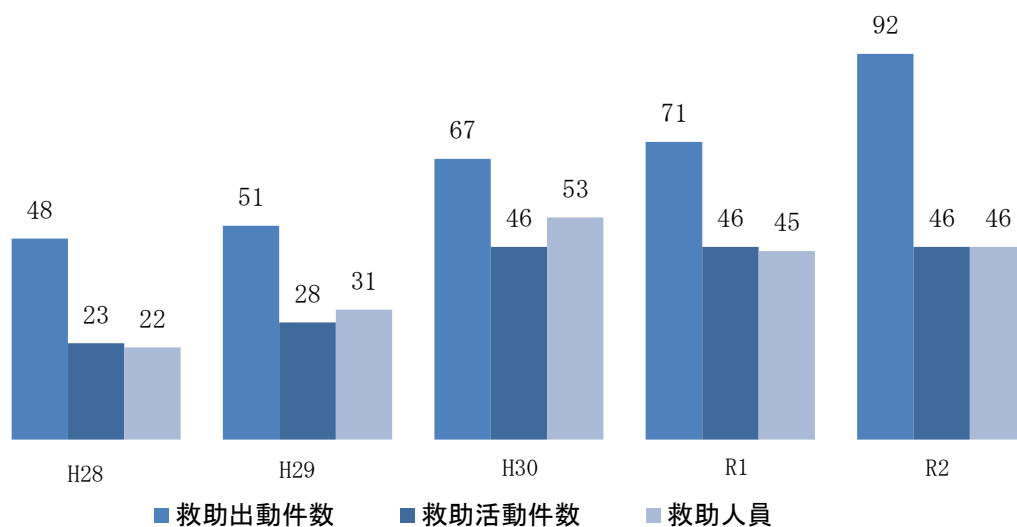
さらに、平成19年には救助工作車を更新し、大規模災害において迅速・的確な人命救助活動を可能とするため必要な資機材を整備しています。

救助の概要

令和2年中の救助出動件数は92件で、前年に比べ21件増加し、救助活動件数は46件で増減なしとなっています。救助人員は、46人で1人増加しています。

出動件数等の推移

年 別 区 分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
救助出動件数	48	51	67	71	92
救助活動件数	23	28	46	46	46
救助人員	22	31	53	45	46



救助出動状況前年との比較

区 分		年 別		増 減
		令和2年	令和元年	
出 動 件 数		92	71	21
活 動 件 数		46	46	0
救 助 人 員		46	45	1
事 故 種 別	火 災	3		3
	交 通 事 故	12	21	△ 9
	水 難 事 故	2	5	△ 3
	自 然 災 害			
	機 械 事 故		1	△ 1
	建物等による事故	26	23	3
	ガス・酸欠事故	1	1	0
	破 裂 事 故			
そ の 他 の 事 故		48	20	28
傷 病 程 度	死 亡	13	9	4
	重 症	6	8	△ 2
	中 等 症	10	12	△ 2
	軽 症	11	8	3
	そ の 他	6	8	△ 2

月別救助出動件数

(令和2年)

月 別	種 別	総 数									
			火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故
1 月		9	1	1	1			2			4
2 月		5	1	1				2			1
3 月		9						6			3
4 月		7	1	1				1			4
5 月		4						1			3
6 月		7		3					1		3
7 月		7						3			4
8 月		11		1				3			7
9 月		7		3				2			2
10 月		7		1	1						5
11 月		7						2			5
12 月		12		1				4			7
合 計		92	3	12	2			26	1		48

救助種別及び傷病程度

(令和2年)

種 別 区 分		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に 由 り る 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 故
出 動 件 数		92	3	12	2			26	1		48
活 動 件 数		46	3	6	1			26	1		9
救 助 人 員		46	1	7	1			27	1		9
傷 病 程 度	死 亡	13			1			12			
	重 症	6		1				3			2
	中 等 症	10		3				5			2
	軽 症	11		2				5	1		3
	そ の 他	6	1	1				2			2
	合 計	46	1	7	1			27	1		9

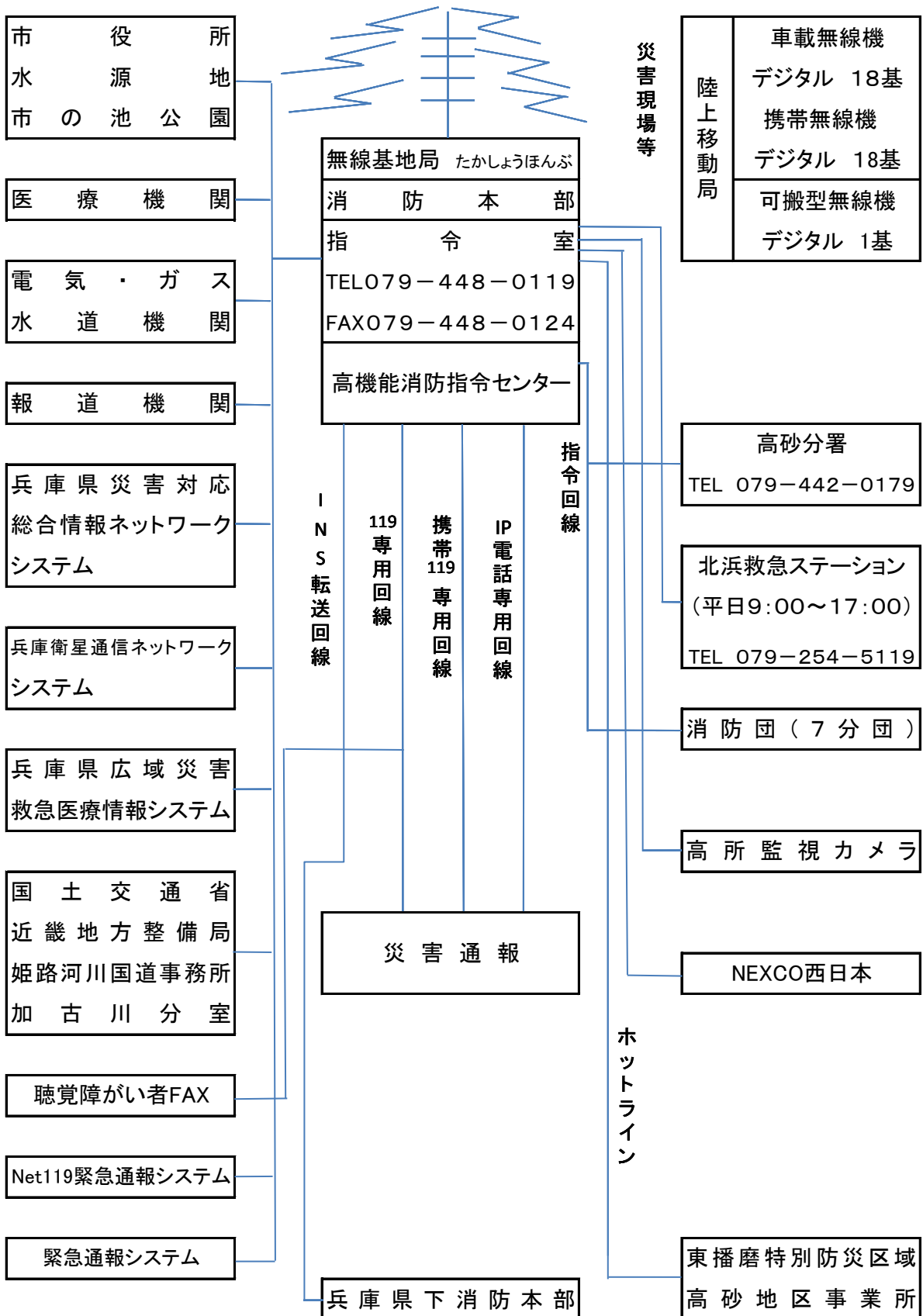
発生場所別出動件数

(令和2年)

種 別 区 分		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に 由 り る 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 故
屋 内	住 居	62	3					24			35
	そ の 他 の 屋 内	3						2			1
屋 外	道 路	8		6							2
	水 面	内 水 面	2		1						1
		外 水 面	3			2					1
	山 岳	5									5
そ の 他 の 屋 外		9		5					1		3
そ の 他											
合 計		92	3	12	2			26	1		48

管 制

消防通信系統図



高機能消防指令センター

近年の都市構造の変化・情報の高度化・高齢化社会及び広域防災に対する対応力の強化などが問われているなか、先端技術を駆使したシステムにより、市民の安全で快適な暮らしを守ることを基本目標に、高機能消防指令センターの導入を図り、平成26年3月29日から運用開始しています。

統合型位置情報システム

近年、携帯電話及びIP電話加入者は著しく増加しており、当市における119番緊急通報全体の約75%を占めています。この割合は、今後も増加傾向にある中、本システムは通報者の発信位置に関する情報を、指令室にある端末の電子地図上に表示して、現場確定時間を短縮することが出来るものであり、平成26年3月29日から運用しています。

指令電送装置・消防職員／消防団指令システム

地震、火災等は迅速な対応が求められるため、指令台と連動しEメールにより消防職員、消防団員の携帯電話に災害情報を送るもので、平成26年3月29日から運用を開始しています。

Net 119 緊急通報システム

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。携帯電話やスマートフォンのWeb（インターネット）機能を通して、簡単な操作で119番通報ができます。令和2年12月から運用を開始しています。

緊急通報システム

一人暮らしの高齢者が急病等に見舞われた際、「119番」のダイヤルを回すことなくワンタッチ操作により緊急通報受信センターに緊急事態を通報することができるシステムです。平成3年11月1日から運用を開始しています。

緊急通報受信専用ファクシミリ

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が利用できるように、高砂市消防本部指令センターに緊急通報受信専用ファクシミリを設置し、平成11年7月1日から運用を開始しています。

非常通報電話（ホットライン）

石油コンビナート等災害防止法に基づく東播磨特別防災区域高砂地区協議会の会員事業所9社と消防本部とを直結した通報専用回線で、災害発生時にはワンタッチで連絡することができるもので、平成5年9月1日から運用を開始しています。

兵庫県広域災害・救急医療情報システム

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、大規模災害に対応できるよう、災害時における医療の情報及び平時における救急医療の情報提供を行います。また平成21年4月から新システムの更新に伴い、患者の重症度（一定の基準）に応じて複数の医療機関に一斉に搬送要請を行い、医療機関から応需可否情報を受けることによって、早期に受入医療機関を確保するものです。

緊急情報ネットワークシステム（Em-Net）

このシステムは、行政用専用回線（LGWAN）で都道府県・市区町村に対して、端末PCへ強制的にメッセージが着信、アラームが鳴り、警報や避難措置などの国民保護法に基づく法定通知文書を配信するためのもので、平成21年8月31日から運用を開始しています。

兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム（フェニックス防災システム）

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、光ファイバーケーブルにより、県・市町・消防本部及び関係機関に設置された防災ワークステーションと直結しています。

県下市町に設置されている地震計等からの情報収集とその解析により、迅速・的確な応急対応が可能で、平成8年9月25日から県下一斉に運用を開始しています。

兵庫県衛星通信ネットワーク（衛星アンテナ・衛星端局・防災電話・防災FAX）

このシステムは、地上の災害による影響を受けないので停電やケーブルの断線等による通信途絶の心配がなく、防災情報等の収集及び伝達が的確にでき、災害に対して迅速な対応ができます。

高砂市も災害の未然防止、災害の軽減を図るため平成5年4月から運用を開始しています。

通信・気象

119番受付件数

(令和2年)

月	区分	災 害				試 験	問 い 合 わ せ	い た ず ら	間 違 い	そ の 他	計
		火 災	救 急	救 助	そ の 他						
1	専用	2	177	0	1	22	34	0	6	15	257
	携帯	3	186	5	0	3	69	0	5	34	305
	小計	5	363	5	1	25	103	0	11	49	562
2	専用	2	123	0	0	19	23	0	4	16	187
	携帯	1	161	1	1	6	36	0	13	39	258
	小計	3	284	1	1	25	59	0	17	55	445
3	専用	2	159	2	1	23	15	0	3	6	211
	携帯	2	136	4	1	2	34	1	13	40	233
	小計	4	295	6	2	25	49	1	16	46	444
4	専用	2	134	0	0	19	15	0	4	9	183
	携帯	0	124	1	0	0	39	0	15	32	211
	小計	2	258	1	0	19	54	0	19	41	394
5	専用	1	117	0	1	24	22	0	4	16	185
	携帯	0	120	2	1	0	37	1	5	32	198
	小計	1	237	2	2	24	59	1	9	48	383
6	専用	0	129	0	1	24	14	0	1	8	177
	携帯	0	128	4	0	2	46	0	12	33	225
	小計	0	257	4	1	26	60	0	13	41	402
7	専用	3	117	1	1	39	20	0	6	18	205
	携帯	0	150	4	2	4	53	0	11	36	260
	小計	3	267	5	3	43	73	0	17	54	465
8	専用	6	141	0	2	15	31	0	7	14	216
	携帯	4	187	9	0	1	79	1	6	49	336
	小計	10	328	9	2	16	110	1	13	63	552
9	専用	0	116	0	0	22	12	0	4	18	172
	携帯	0	152	2	1	0	40	0	7	51	253
	小計	0	268	2	1	22	52	0	11	69	425
10	専用	1	169	0	0	31	23	0	1	11	236
	携帯	3	159	2	1	5	37	0	4	22	233
	小計	4	328	2	1	36	60	0	5	33	469
11	専用	0	149	1	2	39	23	0	5	21	240
	携帯	1	139	2	3	4	50	0	7	25	231
	小計	1	288	3	5	43	73	0	12	46	471
12	専用	0	174	0	0	18	24	0	4	11	231
	携帯	1	164	8	2	0	56	0	9	46	286
	小計	1	338	8	2	18	80	0	13	57	517
合計	専用	19	1,705	4	9	295	256	0	49	163	2,500
	携帯	15	1,806	44	12	27	576	3	107	439	3,029
	小計	34	3,511	48	21	322	832	3	156	602	5,529

※ 専用＝IP電話を含む、携帯＝転送を含む

気象状況

(令和2年)

月別	風向	風速 (m/s)		気温 (°C)			湿度 (%)			雨量 (mm)		
	最多風向頻度 (%)	最大瞬間風速	平均風速	最高気温	最低気温	平均気温	最高湿度	最低湿度	平均湿度	降(日雨最大量)	積算降雨量	降雨日数
1	22.0 西北西	24.5 西南西	2.6	17.3	-0.2	7.7	98.8	27.9	67.5	21.0	37.0	6
2	20.6 北東	17.4 西北西	2.4	18.0	-2.4	7.0	99.9	31.3	66.1	7.5	33.5	7
3	21.4 北東	17.9 北西	2.4	21.0	-0.4	10.2	99.9	20.3	66.3	14.5	59.5	8
4	16.3 北東	18.6 北北東	2.7	22.7	3.3	12.7	97.6	18.4	60.2	27.0	93.5	7
5	22.4 北東	17.1 西南西	2.4	27.6	10.7	19.9	99.9	15.9	68.8	21.0	67.5	13
6	20.7 北東	14.2 南南東	2.1	30.9	17.0	24.1	99.9	31.8	75.2	47.5	184.5	9
7	16.0 北東	14.3 南	2.4	33.2	19.7	25.4	99.9	53.6	85.1	43.0	268.5	17
8	24.6 北東	16.9 南	2.2	36.7	22.9	29.9	96.5	35.0	74.3	0.0	0.0	0
9	24.2 北東	27.1 南南東	2.5	35.6	16.6	25.3	99.9	31.7	75.8	54.5	120.0	12
10	26.2 北東	16.1 北東	2.1	27.5	6.5	18.1	99.9	30.0	71.4	31.5	98.5	7
11	22.3 北東	16.6 南南西	2.0	24.8	4.0	13.7	99.9	31.8	71.7	28.0	34.5	5
12	33.1 西北西	23.9 西	2.5	15.9	-1.1	7.2	95.2	28.1	65.2	6.0	10.0	4
年間	20.3 北東	27.1 南南東	2.4	36.7	-2.4	16.8	99.9	15.9	70.6	268.5	1007.0	95

※ 高砂市消防本部（高砂市伊保4丁目）観測データ

施設及び装備

消防水利の現況

(令和2年4月1日現在)

地区	水利	防火水槽	井戸	プール	消火栓	合計
高砂		14		5	219	238
荒井		21		2	281	304
伊保		15		2	431	448
中筋		7		2	133	142
曾根		10		3	253	266
米田		13	3	3	340	359
阿弥陀		24		2	280	306
北浜		9		1	137	147
合計		113	3	20	2,074	2,210

消防車両一覧

(令和2年4月1日現在)

配備先	配備車両	ポンプ性能	排気量(CC)	登録年月日
消防本部	査察兼広報車		1,830	H14. 3. 11
	連絡車		1,330	H18. 5. 30
	連絡車(軽四)		650	H28. 10. 18
	支援車		2,730	H17. 1. 11
	物資搬送車		1,780	H15. 2. 25
消防署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,000	H22. 12. 15
	梯子付消防自動車(30m級)		10,520	H18. 2. 23
	水槽付普通消防ポンプ自動車(I-A型)	A-2	6,400	H17. 3. 7
	大型化学消防ポンプ自動車(大I型)	A-1	10,520	H13. 3. 19
	泡原液搬送車		7,960	H15. 3. 17
	救助工作車(II型)		6,400	H19. 1. 26
	救急車(高規格車)		3,370	H17. 2. 8
	救急車(高規格車)		2,690	H25. 1. 29
	救急車(高規格車)		2,690	H28. 12. 19
	指揮車		2,690	H23. 1. 25
	資機材搬送車		7,160	H16. 3. 11
高砂分署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,890	H11. 10. 28
	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(I型)	A-2	5,120	H30. 3. 15
	救急車(高規格車)		2,690	H22. 6. 18

主な消防機械器具の状況

(令和2年4月1日現在)

資 機 材 名		数 量	資 機 材 名		数 量	
放水器具	消防用ホース（75mm）	12	救助器具	熱画像直視装置	1	
	消防用ホース（65mm）	197		水中通話装置一式	1	
	消防用ホース（50mm）	309		潜水器具一式	8	
	消防用ホース（40mm）	11		救命ボート	4	
	小型動力消防ポンプ（B-2級）	3		救助用三脚	1	
	小型動力消防ポンプ（C-1級）	2		油圧ジャッキ	2	
	放水砲	1		簡易画像探査装置	1	
	ラインプロポーションナー	2		救助用支柱器具	1	
	高発泡器	1		測定器具	可燃性ガス測定器	3
	組立式簡易水槽	4			放射線測定器	7
ジェットシューター	13	ポケット線量計	21			
救助器具（救急工作車積載分）	かぎ付はしご	1	隊員保護具	空気呼吸器	29	
	三連はしご	1		耐電衣	7	
	救命索発射銃	1		化学防護服A・B	30	
	サバイバースリング	1		化学防護服C	40	
	救助用縛帯	2		耐熱防火衣	6	
	エンジンカッター	1		放射能防護服	3	
	チェーンソー	1		救急器具	高圧蒸気滅菌器	2
	バスケット型担架	1	オゾン水生成装置		2	
	可搬式ウインチ	1	オゾンガス生成装置		2	
	積載分	油圧式カッター	1	照明器具	携帯用発動発電機	11
油圧式スプレッダー		1	コードリール		10	
空気式マット型ジャッキ		1	三脚付投光器		9	
ハンマードリル		1	その他	エアータント	2	
送排風機		1		インパルス銃	2	
	携帯用破壊器具	1		高圧空気圧縮機	1	

水 防

事前調査

5月14日 市内急傾斜地、ため池、堤防、要注意箇所及び土砂災害危険箇所調査

活動

(令和2年)

月 日	内 容	消防活動状況
9月3日～9月7日	台風10号に伴う水防活動	土のう配布 救急出動(自転車が強風で転倒) 強風による飛散物の撤去 市内水防調査